

令和3年度 福岡県地域福祉活動職員連絡会 事業計画

(1) 方針

昨年から続く新型コロナウイルス感染症の拡大は、住民の生活様式や地域のつながりを希薄化させる大きな要因となっています。それに加え、生活福祉資金特例貸付により、社会福祉協議会に対する世間の認識も大きく変わり、職員自体のコミュニティワークに対する意識も揺らいでいるのではないのでしょうか。

貸付やそれによる個別支援も大切な社協の使命です。そこからどう課題を整理し、その課題を解決していくために地域を巻き込み体制を作っていくことは、社協にしかできないことではないのでしょうか。

今年度は、職員（ワーカー）一人ひとりが社協の強みを見出し、自分自身の意識を変革しつつ、それを自分の社協や地域に還元できるよう研修を企画し、現状のコロナ禍を配慮しながら実施していきます。

(2) 具体的な事業内容

【研修事業】

「先輩ワーカーから学ぶ研修会」

長年、社協で活躍された先輩ワーカーが、これまでの社協人生をふり返って今思うことや後輩たちに伝えたいことは…。

これからの社協はどこに向かって進んでいけばいいのか、講師の考えを学び、これからの社協を担う私たちの指針を得る機会としたいと思います。

▼日 時／令和4年1月

▼会 場／未定

▼対象者／社協職員

▼講 師／未定

「想いを形にするために～新たなアクションを起こすための研修会～（仮）」

生活様式の変化や、世帯の在り方など、個人や地域が抱える課題（ニーズ）は移り変わっていきます。社協は、その変化するニーズを正確にキャッチし、必要な活動として地域とともに“カタチ”にしていく必要があります。

しかし、そのためには『人』『もの』『財源』といった事業や活動を構成するものがなければ、実現することは不可能ですし、業務をするにあたっては課題意識をもって取り組まなければ、ただ既存の事業をするだけで、時代に合った需要に対応することはできません。

地域が求める活動をいかにして形にしていけるのかを、方法論だけでなく組織や人と人とのつながりなどから考えることを目的に研修します。

▼日 時／令和3年9月

▼会 場／未定

▼対象者／社協職員

▼講師（コーディネーター）／未定

「社協の発想力向上委員会～“言う気”は“勇氣”～」（中堅社協職員研修委員会との合同企画）

私たちのフィールドである地域は、都市部・山間部・沿岸部などその地域によって生活環境や生活課題は異なり、それに応じて私たち社協職員はオーダーメイドで地産地消の地域福祉活動を進めているはずですが、その上で社協職員にとっては様々な角度や視点から課題や状況を把握することは重要なスキルであり、そこからどう動いていけばいいのか、どう提案（プレゼン）していけば伝わるのかを考えたとき必要となってくるのが発想力です。何が正しく何が間違いなのか、何が常識で何が非常識なのか、自分だけの尺度で解釈するだけでは解決や活動には発展しません。しかし、社協によっては事業の細分化等により自分で考え、自分で発想するという機会に恵まれない職員もあり、発想力・企画力を養う場が激減している状況も見受けられます。

自分たちの凝り固まった頭を柔らかくし、柔軟な発想から地域活動を創っていくための研修を実施します。

▼日 時／令和3年7月

▼会 場／未定

▼対象者／社協職員

▼講師（コーディネーター）／未定

「住民の心を揺さぶるワーカー養成研修会（仮）」（中堅社協職員研修委員会との合同企画）

地域福祉活動を推進していく上では、住民との信頼関係の構築はもちろん、関心がない住民に関心をもってもらうことや、関心の高い住民のモチベーションをさらに高めるようなワーカーの関わりや働きかけが重要となります。

そこで今回は、住民からより必要とされるワーカーになるためにどのようなワーカー像を目指すべきかを参加者全員で考え、理想のワーカーに近づけるためのヒントを共有し、自身のスキルアップに活かせる場として本研修会を開催します。

▼日 時／令和3年11月

▼会 場／未定

▼対象者／社協職員 20名程度

▼講 師／基調講演およびグループワーク・個人ワーク

【会議の開催】

■全体会議の開催-----

地職連では研修事業や広報活動など『コミュニティワーク』にこだわった事業を実施しています。他市町村社協の活動や手法を知ることも必要ですが、どんな考えをもってその活動や事業に取り組むのか、といった議論を地元の社協内ですることがなかなかないという声も聴きます。外だから話せる自分の「考え方」を共有することで、新たな「考え方」が生まれてくることもあります。

考え方の整理や新たな視点などを同じ立場のワーカーから吸収し、考え方を固め、各社協職員が想いを語り合うことを目的として開催します。

▼日 時／令和4年3月

▼会 場／未定

▼対象者／社協職員

■委員会・課題別会議・研修の開催および自主研修支援-----

社協はその性質上、まだまだ日の目を見ていない様々な福祉課題に関わっています。しかし、先駆的に取り組んでいく上で「実際この方法で良いのだろうか」、「本当にこの人のための活動になっているだろうか」、「そこに社協ワーカーとしての視点が入っているだろうか」など様々な自問自答や戸惑いを感じている方も少なくはないのではないのでしょうか。

県内には同じような悩みを抱えているワーカーもいます。そこで同じ悩みを持つワーカー同士の情報共有、悩みの共有をする場として、必要に応じ委員会の設置や会議及び研修会等を開催します。

また、自主研修活動をより一層盛り立ていくために、地職連より助成を行います。助成条件は以下のとおりです。

※上限は1回あたり5万円とします。

【自主研修会助成条件】（以下の全ての項目を満たすもの）

- ①社協ワーカーの資質向上やつながりづくりを目的として開催されること
- ②参加の呼びかけは地職連 Facebook 等を活用して県内全体に行うこと
- ③開催要項（案）と予算（案）を開催日1か月前までに会長に送付し、承認を得ること。
- ④研修参加者が3社協6名以上であること。

「中堅社協職員研修委員会」への支援

地職連役員会より中堅社協職員向け研修の企画及び運営について、県内社協職員有志による企画委員会が組織化され、市町村社協を支える中堅職員に今必要な知識や課題について研修会等を企画しますので、研修会等の参加とともに、委員会への参画もお待ちしております。

研修内容及び日程については、企画が出来次第県内市町村社協に通知いたします。

【広報事業】

■ 会報「まなこ」の発行-----

会報「まなこ」は、本会が発足当初から、社協ワーカーとしての思考・視点で書き、社協ワーカーが地域で活動する上での思いや主張を語る場として発行し続け、全国の市町村にも送り続けています。

今後も、地域の中で福祉課題を抱える人たちの思いや地域の課題に取り組むワーカーの思いを伝えるために、発行したいと考えています。県内ワーカーの主体的な参加を促し発行します。

▼6月、11月発行予定

■ ホームページ、facebook の運営-----

県内社協職員の協力を得ながら、情報発信のツールとしてホームページの運営をしています。地職連の研修告知や広報誌『まなこ』のバックナンバーの掲載、各社協の活動等も発信できるようとなっておりますので、皆さんの活発な活用を期待します。

また、facebook については、タイムリーな情報発信のツールとして今後も運営を続けます。

【その他の事業】

■ 全国社協職員のつどい参加促進-----

令和元年度開催予定でした全国社協職員のつどいが新型コロナウイルス感染症の感染拡大に配慮し延期となりました。日程や開催方法については未定ですが、参加を希望する方については参加費用や旅費等の補助を出すようにしております。関西コミュニティワーカー協会より詳細が決まり次第お知らせします。

■ 福岡県社協との連携-----

広域社協である県社協との連携を深め、意見・情報交換の場を設け、課題を見据えながら必要に応じ研修会の共同企画などを行っていきます。